

2月 5日(日) ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 24章36節～51節 (新約 48頁)

メッセージ 「だから、目を覚ましていなさい」

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。(マタイによる福音書 24章42節)

(1) イエス様が弟子たちに語られた「世の終わりの教え」、「終末の教え」の続きです。先週までの箇所ではイエス様は、終末に何が起るのかを弟子たちに教えました。その最後は、29節からの人の子が来ることでした。キリストの再臨です。そして、先週の「いちじくの木」の教えから、イエス様はたとえを語り始めました。全部で7つあるこのたとえは、その日はいつ来るのか、いつその時を迎えるのかの問いに答えるたとえでした。

(2) 問いへの応答、それは最初の36節に登場します。「その日、その時は、だれも知らない」。あなたがたには分からない。それどころか見ると天使たちも、もっと言うなら神の子であるイエス様ですらも分からない。いつ来るのかは、ただ神のみが御存知であると言います。言い換えると、神が決意された時、それが「その日、その時」です。従って、他の何ものも、当然「その日、その時」を知ることは出来ません。

そして、37節からノアのたとえ、43節からは家の主人と泥棒のたとえ、そして46節から忠実な僕と悪い僕のとえが語られます。ノアの物語は旧約聖書の創世記6章から10章に登場します。神によって洪水が起こる事を知らされたノアは箱舟を作りますが、周囲の人たちは洪水が起こることに気付かず、その直前まで日常を過ごしていました。このように、日常生活を送っている時に突然その時がやってくる。だから、目を覚ましていてノアのように準備

をなさいと教えます。

また、家の主人はいつ泥棒が来るか分かっていたら準備をするでしょうが、泥棒はいつ来るか分かりません。だから、同じように「その日」をいつ迎えてもいいようにあなたがたは準備をなさいと教えます。

「忠実な僕と悪い僕」のたとえは、使用人のために食事を準備するよう主人から頼まれた僕が登場します。忠実で賢い僕は、主人がいない間も言いつけ通り使用人たちに食事を準備します。だから、主人が帰ってきた時、忠実な僕は主人から信頼されすべてを任せられます。ところが、悪い愚かな僕は主人がなかなか帰ってこないのいいことに仲間を傷つけ、自分勝手な振り舞いをします。ところが、主人が突然帰ってきたら、その僕は主人から罰せられます。だから、主人がなかなか戻って来ないとしても、仲間を傷つける悪い僕ではなく、仲間である使用人に仕える忠実で賢い僕であるようにと教えます。

(3) イエス様の頃も、始まったばかりのキリスト教会の頃も、終末は間もなく来ると信じられていました。ところが、何十年も終末がやって来ない。マタイ福音書が書かれた当時、緊張感が薄れる者たちが現れていたと言われていました。そんな中、このたとえは、当時のキリスト者たちの神への思い、イエス様によって教えられた神の御心を求める姿を支え、主の僕であるキリスト者としてふさわしい姿へと導いたことでしょう。(多田玲一牧師)